

東日本大震災から10年 **災害を考える** 指南役：若松英輔（批評家）

死者・行方不明者が22,000人を超え、史上例をみない程の大規模な被害をもたらした東日本大震災から10年の歳月が経とうとしている。復興が進む一方、今なお痛みを抱え、再生への道筋が見えない人たちも数多くいる。

更に私たちは今、新型コロナウイルス禍というこれまで経験したことのない災禍の最中にある。まさにこんな時だからこそ、古今の名著から「生きる力」「危機に向き合う姿勢」「未来を拓く叡智」などを学ぶべきであろう。

そこで今月の番組では、批評家の若松英輔さんを指南役に招き、『天災と日本人』『先祖の話』『生の短さについて』

『14歳からの哲学』の4冊を取り上げ、震災や新型コロナウイルス禍での体験に寄り添いながら解説していく。「つながり」をキーワードに、危機との向き合い方、引き裂かれた魂の回復、未来に向けての真摯な思考など、現代に通じるテーマを読み解いていきながら、災禍に見舞われた時、人はどう再生し、新たな一歩を踏み出していけるかを考えていきたい。



■若松英輔（わかまつ・えいすけ） 批評家、随筆家。『内村鑑三をよむ』（岩波書店）『生きる哲学』（文春新書）『生きていくうえで、かけがいのないこと』（亜紀書房）『14歳の教室 どう読みどう生きるか』（NHK出版）ほか、著書・編著多数。

■番組構成 ※内容は変更となる場合があります。ご了承ください。

- 第1回 寺田寅彦『天災と日本人』 予測できない危機にどう向き合うか
- 第2回 柳田国男『先祖の話』 死者との「つながり」を考える
- 第3回 セネカ『生の短さについて』 「時」というもののかけがえのなさ
- 第4回 池田晶子『14歳からの哲学』 未来をどのように思い描いていくか

■放送予定 番組名「100分de名著 東日本大震災から10年 災害を考える」

- 第1回 3月01日（月） 寺田寅彦『天災と日本人』
- 第2回 3月08日（月） 柳田国男『先祖の話』
- 第3回 3月15日（月） セネカ『生の短さについて』
- 第4回 3月22日（月） 池田晶子『14歳からの哲学』

NHK・Eテレ（教育テレビジョン） 月曜日 夜10時25分～50分  
（再放送は、直後の水曜日 朝5時半と正午の二回）

■テキスト3月号「100分de名著 東日本大震災から10年 災害を考える」

- 発売日 2月25日
- 発行 NHK出版
- 定価 524円＋税